



全力でたすきをつないだ 応援した ファミリーを意識した ～校内駅伝大会～

11月15日(水) 校内駅伝大会を行いました。前日の雨で順延となりましたが、たくさんの保護者の声援の中、みな全力で走りきりました。体育大会で培った団の絆を合唱コンクールにつながり、つないできた想いをタスキに込めて次の走者に渡していきました。最後まで自分のベストを尽くそうとする様子がよく伝わってきました。体育大会で培った学年間のつながりで、それぞれが所属した団がひとまとまりになって応援あいました。補欠レースでも全員が最後まで必死に走っている姿がとても立派で素敵でした。

全校の個人男子の部では、ベスト10に3年生が5人入賞し、3年生の底力を示しました。また、個人女子では、ベスト10に1年生が5人入り、新しい力の台頭を感じました。各学年の優勝学級など主な記録は以下の通りでした。



校内駅伝大会 主な記録

<学級の部>

1年	総合優勝	5組	2位	1組
	男子優勝	5組	2位	1組
	女子優勝	3組	2位	5組
2年	総合優勝	3組	2位	2組
	男子優勝	3組	2位	1組
	女子優勝	2組	2位	5組
3年	総合優勝	2組	2位	4組
	男子優勝	2組	2位	5組
	女子優勝	4組	2位	1組
<団の部>	優勝	爛瑰(3-4、2-2、1-1)		
	2位	醒嵐(3-5、2-3、1-2)		

<個人男子の部>

1年	1位	楠名	斗彪	(06' 32")
	2位	鈴木	孝佑	(06' 40")
2年	1位	伊藤	大地	(06' 22")
	2位	萩原	風流	(06' 24")
3年	1位	後藤	ユリ	(06' 24")
	2位	津瀬	冠太	(06' 25")

<個人女子の部>

1年	1位	長坂	愛華	(04' 39")
	2位	宮園	奈々	(04' 57")
2年	1位	伴	玲杏	(04' 53")
	2位	黒田	実由	(05' 03")
3年	1位	安藤	小万智	(04' 39")
	2位	中川	結衣	(04' 56")

市内造形展

11月11日(土)、12日(日) 市内造形展がありました。1年生は絵文字をデザインした作品でした。作品の一部に粘土を使って立体感を出し、個性あふれる作品に仕上がっていました。2、3年生は、絵の一部を絵の枠からはみ出させた作品で、絵が飛び出してきたかのような錯覚を与える作品でした。2年は窓やドアを作品に入れ特徴を出していました。3年生はデザイン性に富んだ作品でした。特別支援学級は、「アジアをつなぐ仮面のま」と題し、立体感のある木と個性あふれる仮面で、楽しい作品に仕上がっていました。



代表として全力でつないだ、やり切った！ ～碧南市中学校駅伝大会～

11月19日(日) 碧南市中学校駅伝大会が行われました。前日予定でしたが、雨のため順延となりました。開会式前から気合が入った表情でみな必死の走りを見せました。どの学校も一生懸命練習に取り組んできておりハイレベルなレースが展開されました。女子の部は南中が、1年男子の部は新川中が、2・3年男子の部は中央中が優勝しました。5校どの学校も3位入賞を果たし、各校の力が拮抗していたと感じました。本校は惜しくも優勝は逃がしましたが、女子が2位と4位、2・3年男子が4位と6位、1年男子が5位と9位と健闘しました。どの選手も自己ベストを目指して全力を尽くし、次のランナーにタスキをつなげました。

練習から一生懸命取り組み、閉会式後の反省会では、参加者みんながやり切った清々しい笑顔を見せていました。今年の走りを来年へぜひつなげてほしいと思いました。



<女子の部>

1.5km×5人

2位 東中 A (伴 玲杏、長坂愛華、坂田実優、堀田ひなた、安藤小万智) 28分49秒

4位 東中 B (杉浦萌香、宮園奈々、黒田実由、山田日菜子、池田なつみ) 29分58秒

<男子1年の部>

1.5km×5人

5位 東中 A (楠名斗彪、鈴木創太、鈴木孝佑、鈴木貫太、柳澤圭佑) 26分32秒

9位 東中 B (久保田敦紀、山本圭悟、藤江孝太、鈴木陽仁、山田勘太) 28分10秒

<男子2、3年の部>

3km×5人

4位 東中 A (伊藤大地、津瀬冠太、中根洸斗、高橋智弥、萩原風流) 55分16秒

6位 東中 B (田中奨大、佐脇桜太、石橋神威、神谷光星、山岡紬起) 55分57秒

13位 東中 C (久田誠也、横山修斗、浜田大芽、近藤駿介、宮地竜司) 59分39秒

校内で見つけた

この一冊

第2図書室の書棚にあります



「君の臍臓をたべたい」

著者 住野 よる

2016年本屋大賞第2位に選ばれ、今年7月に映画化された作品です。

主人公である「僕」は「共病文庫」というタイトルの文庫本を病院で偶然拾います。それは、クラスメイトである山内桜良が綴っていた秘密の日記帳で、彼女の余命が臍臓の病気によりもう長くはないことが記されていました。

「僕」、桜良という正反対の性格の2人が、それぞれに憧れを持ち、次第に心を通わせていきながら成長していくお話です。「君の臍臓がたべたい」一見ぞっとするようなタイトルですが、作品を読むとその真意が見えてきます。